



コバトン



令和4年度病害虫発生予察注意報第1号

令和4年7月11日
埼玉県病害虫防除所

6月中旬に県内ネギほ場を調査したところ、さび病の発生量は直近10年で最も多い結果となりました。その後、早い梅雨明けと連日の高温により発生は大きく抑制されましたが、夏以降の気温低下に伴って再び多発することが懸念されます。

発生が見られているほ場では、今のうちに防除を行って越夏する病原菌を減らしましょう。

また、夏以降気温が低下し始めたらほ場をよく観察し、早期発見・早期防除を徹底しましょう！

作物名 ネギ
病害虫名 さび病

1 注意報の内容

- (1) 発生地域 県内全地域
- (2) 発生程度 多

2 注意報発表の根拠

- (1) 県内ネギほ場を巡回調査した結果、さび病の発生量が平年を大きく超えており、直近10年で最も多かった（発生ほ場率100%）。
- (2) 6月21日に気象庁が発表した関東甲信越地方の3か月予報（7～9月）によると気温は平年より高く、高温により越夏出来ない胞子が増える見込みである。しかし、6月中旬の発生量が非常に多いため、越夏する胞子量は平年より多いと見込まれる。
- (3) 越夏する胞子量が多くなった場合、9月以降の気温低下と降水量の増加により、多発が懸念される。



写真 さび病が発生したネギ葉（左・中央：本ぼ 右：苗）（R4.6撮影）

3 防除対策

- (1) 発生が見られたら、本病に登録があり治療効果のある薬剤で防除する。
- (2) 夏以降、気温 25℃以下・多湿条件となると発病しやすくなるので、予防的に防除を行う。
- (3) 葉の窒素含量が多いほど発病しやすくなるので、過剰な追肥とならないよう施肥量に注意する。
- (4) 発病ネギは感染源とならないよう、早めに収穫し発病葉をほ場に残さない。
- (5) 出荷調整時に出た残渣中の発病葉は、土に埋めるなど適切に処分する。

表 さび病の防除薬剤例

薬剤名	FRACコード	使用時期	使用方法	使用回数
ヨネポン水和剤	M01	収穫 7 日前まで	散布	4 回以内
ダコニール 1000	M05	収穫 14 日前まで	散布	3 回以内
ジマンダイセン水和剤	M03	収穫 14 日前まで	散布	3 回以内
オンリーワンフロアブル	3	収穫 14 日前まで	散布	3 回以内
ベルコート水和剤	M07	収穫 30 日前まで	散布	3 回以内
パレード 20 フロアブル	7	収穫前日まで	散布	3 回以内
アミスター20フロアブル	11	収穫 3 日前まで	散布	4 回以内
ユニフォーム粒剤	4、11	土寄せ時、但し収穫 45 日前まで	株元土壌混和	1 回
カーニバル水和剤	M05、40	収穫 14 日前まで	散布	3 回以内

(使用基準は令和 4 年 6 月 22 日現在)

4 問合せ先

埼玉県病害虫防除所 電話：048-539-0661

※ 埼玉県農薬危害防止運動実施中！ (令和 4 年 5 月 1 日～8 月 31 日)

<農薬使用上の注意事項>

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍率は使用の度に確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 5 農薬散布は暑い時期を避け、熱中症にならないよう注意する。
- 6 農薬の最新情報は、埼玉県農産物安全課ホームページをご覧ください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/a0907/index.html>